

わどまり

議会だより



発行 平成24年1月25日 鹿児島県和泊町議会
 編集 議会報編集委員会 〒891-9192 鹿児島県大島郡和泊町和泊10番地 TEL 0997-92-2569 FAX 0997-92-3176
 ホームページ <http://www.town.wadomari.lg.jp/>



和泊町町制施行70周年記念式典・祝賀会



和泊町町制施行70周年記念祝賀会（平成23年11月12日）

第114号

主な内容

可決された議案事項	2
一般質問	4
先進事例に学ぶ	9
新春の各種行事	10

町の人口

平成24年1月1日現在

男性	3,495人
女性	3,601人
合計	7,096人
世帯数	3,217戸

員定数 12名

可決された 議案事項

平成23年第4回定例会は、12月13日から16日までの4日間にわたって開催され、上程された議案や陳情の一部を除き可決しました。

条例

- 町長等の給与の特例に関する条例の一部改正
給与2か月間5%減額。
- 和泊町議会議員定数条例の一部を改正する条例の制定について
現行議員定数14名から2名減の12名とする。

予算

- 和泊町議会の議決すべき事件を定める条例の制定について
和泊町総合振興計画について議会の議決事件とする。
- 平成23年度一般会計補正予算(第5号)
児童措置費、事業費確定による増額等の予算措置で歳入歳出それぞれ32,926千円追加し、予算の総額は6,143,004千円。
- 平成23年度和泊町国民健康保険特別会計補正予算(第3号)
総務費、保健事業費、諸支出金の増額等の予算措置で歳入歳出それぞれ2,725千円追加し、予算の総額は1,073,270千円。

その他

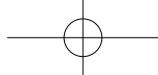
●平成23年度和泊町介護保険特別会計補正予算(第2号)
総務費、保健事業費、諸支出金の増額等の予算措置で歳入歳出それぞれ4,124千円追加し、予算の総額は814,171千円。

●奄美自治会館管理組合の解散
●奄美自治会館管理組合の解散に伴う財産処分の解散

●奄美群島広域事務組合との統合に伴う解散

採択された陳情

- 農道舗装についての要望書について
- 公立学校における教科用図書の使用状況調査を求める陳情について
- 商工会に対する補助金



議会一致で全会

等に関する要望書について

● 陸上空母離着陸訓練施設の馬毛島への移設反対を求める意見書について

● 沖永良部高校に養護学校分校、分教室設置に関する陳情書について

● 側溝整備についての要望書について

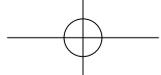
意見書(議員提出含む)

● 米軍陸上空母離着陸訓練施設の馬毛島への移設反対を求める意見書

● 沖永良部高校に養護学校分校、分教室設置を求める意見書



陳情箇所の現地検討をする経済建設委員



一般質問

町民に代わって行政を問う

平成23年(12月)第4回議会定例会

水道事業と高倉保存について



山下幸秀議員

水道事業について

問 他の水道施設が近代化されていく中、越山配水池は老朽化が進んでいる。町民へ安心・安全な水を供給するための中核施設となっている本配水池を整備する考えはないか。

答 越山配水池の更新については、今まで更新した他の配水池と同様に老朽化しており、財政状況等も踏まえながら、計画していく。

問 硬度低減化施設供用後の成果と副産物処理(石灰)の再利用はどうか。

答 水道水に関するアンケート

ートを実施し、その結果「石灰の付着が少なくなった」「たいへん水がおいしくなった」等の回答が84%の方々からありました。副産物の再利用については、11月末現在、278tのうち257tが農家に有効利用されました。今後は、有効性を検証し、有料化も検討したい。

本町の指定文化財である高倉保存について

問 研修センター入口にある高倉は腐食が進み補修に限界がある。建替えの必要があると思うがどのように考えているか。

答 この高倉は、「ハナ倉」と言われ、奄美群島内に現存する高倉の中でも最も風格があり、築200年以上経っており、文化財として

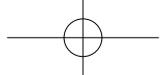
価値の非常に高いものです。保存については、シロアリ食害、梁の腐食が見られるが、専門家の意見を参考にし、措置を講じ、文化財としての保持をしていきたい。

問 「高倉の里」構想として公園等に高倉をモデルにした休憩施設を観光対策とセットで整備できないか。

答 高倉の観光資源としては、奄美広域事務組合主催のエコツアーリズム沖永良部島分科会でも提案があり、各字に残る伝統文化や歴史的な湧水等も含め、協議がなされたところです。今後、沖永良部島の特徴をどのように描いていくかが大事だと考えている。



腐食が進み早期補修が望まれる研修センター入口横の高倉



福祉・環境・農業施策について

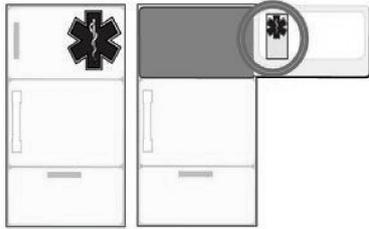


永野利則議員

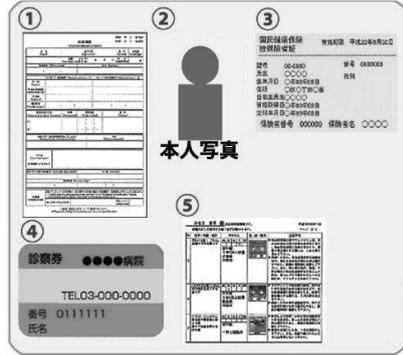
福祉政策について

問 在宅高齢者の急病や自然災害に伴う避難時に、迅速な医療活動を手助けする緊急医療情報キット導入の考えはないか。

答 「緊急医療情報キット」は、ひとり暮らしの高齢者等が、救急や災害などの緊急時に備えるために必要な氏名、生年月日、血液型、服薬内容、かかりつけ医、緊急連絡先などの情報を緊急情報シートに記載し、円筒形のプラスチック容器等に入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておき、救急活動や救助活動を支援するために活用するものです。



冷蔵庫の扉にマグネットを添付します。緊急医療情報キットは、必要事項を記入し冷蔵庫の内の判りやすい場所に保管



救急医療情報キット

与論地区広域事務組合、民生委員やケアマネジャー等の関係者と連携を図り、安心して安全に生活できる環境を整え事業実施要綱等を策定し、導入していく。

問 認知症高齢者の支援策はどうなっているか。

答 認知症高齢者対策として、認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーター養成講座を開催し、330名の認知症サポーターを養成しました。認知症を正しく理解し、認知症の人をサポートできる住民を増やすため、今後は各種団体や集落での養成講座を開催し地域全体で認知症の人を見守り、支えあう体制を構築していく。



環境美化推進について

問 奄美群島世界自然遺産登録に向けて取り組む中、県道・町道・農道沿いに空き缶のポイ捨てが目につくが、どのような対策を講じていくか。

答 奄美群島は、現在世界自然遺産登録に向け様々な環境保全事業が展開されている。ポイ捨て防止にはなんとといっても一人一人が公衆道徳をしっかりと守ることが一番大事であり、学校における環境教育の充実や家庭における美化意識の醸成は重要である。ポイ捨て対策として、関係機関とも連携を図りながらマナー・モラル向上の啓発に努め、併せて目につくところへの看板の設置、環境パトロールの強化による指導等を行い、粘り強く環境美化に取り組む。

農業振興について

問 さとうきび春植用種苗計画はどうなっているか。

答 本島の来年度の春植面積は、223haを計画しているところであり、春植用苗の供給は、本年度同様の春植計画面積の約30%、約67ha分を計画している。生育遅れやメイ虫被害により、開発組合の苗ほ場だけでは来期の種苗が十分に確保できない可能性もあることから、苗用キビを購入し対応する予定である。

問 去る11月13日TPP交渉参加に向け関係国との協議に着手すると正式表明されたが、6次産業化、新規作物導入、差別化販売を早急に検討すべきではないか。

答 国の農業推進の動向を見据え、本町の地域特性を生かした安心・安全な高品質の農畜産物の生産への取り組みを進めていく、6次産業化については和泊町産業間連携推進協議会で、和泊町産業間連携推進ビジョンに基づき、関係機関と連携して推進していく。

TPPと防災対策について



泉 秀樹議員

TPPについて

問 野田総理はTPP参加に向けた協議にはいると国内外に表明したが、今後、国に対してどのような働き掛けをしていくか。

答 伊藤県知事は「TPP交渉参加へのプロセスを始めること自体拙速であり、我が国の国益に反するような事態になった場合には、交渉からの離脱も念頭において適切に対応するよう働きかけていくとともに、情報収集に努める」としている。本町も県や区市町村会、関係機関と一体となって、国に対し、TPPに関する具体的な情報提供や説明を十分かつ正確に行うとともに、不利益な交渉となる可

能性が生じた場合には、交渉から離脱するなど適切に対応することを要請していく。

問 これからの和泊農業をどのように推進していくか。

ア 新品目・新品種の導入
イ 情報通信技術の活用
ウ 新規就農者の確保と育成

答 新品目・新品種の導入については、今後とも実験農場を中心として引き続き取り組んでいく。また、産業間連携や6次産業化による高付加価値化と差別化販売の強化にも取り組む必要があると考えており、そのためには、情報通信技術の活用は不可欠である。新規就農者の確保及び育成対策については、これまでも重点施策として取り組んでおり、今後も国に於いて新たに計画されている施策も検討しながら推進していく。

災害に強いまちづくりについて

問 10月10日の豪雨災害を受け、課題とその対策を今後、どのように講じていくか。

答 10月10日の1時間に100ミリを超える局地的豪雨により、町内の東部地区を中心に、家屋の床上床下浸水、農地の表土の流出

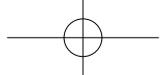


町実験農場で、品種選定試験を行っているトルコキキョウ

町道の損壊といった多くの被害が発生した。原因としては、側溝の排水容量を越えた集中的な増水により、あふれた雨水が農地や低地住宅敷地内へ流入したほか、水路の土砂堆積、耕起による畦畔の喪失、圃場の急勾配等により農地の被害が発生したものと考えられる。以前から、圃場の赤土流出防止対策として圃場周りの側溝の適正管理を呼びかけているが、今回の災害を受

け、区長会を通じ、住宅周辺や圃場の側溝の土砂やがれき除去に、尚一層努めるようお願いしている。今後の対策として、低地住宅への流水防止のための土のう袋を確保するとともに、関係機関と協議しながら水路・圃場の適正な管理等について、啓発をさらに徹底していく。また、流域面積や畑地の勾配等の機能診断についても、関係機関と協議をしていく。





平成24年度の重点施策について



盛 泰夫議員

行財政改革について

問 第2次集中改革プランの進捗状況は怎么样了なっているか。

答 第2次集中改革プランは、第6次行財政改革大綱の実施計画として、効率的な行政運営と行政サービスの向上を目的に策定され平成22年度から26年度までの5年間を集中期間として取り組むこととしています。今後、外郭団体の補助金の見直し等について取り組んでいく。

活力あるまちづくりについて

問 商店街の街路灯（防犯

灯）の整備はできないか。

答 商店街は、町の顔でもあり、夜間の利用者も多く、人や車等の交通量も多いことから、安心・安全の町づくりの面からも整備の必要性を感じ、現在商工会と補助事業導入に向けた協議を進めている。

問 顧客サービスの拡充に向けポイントカード会に対する助成はできないか。

答 加盟店が減少している理由やポイントカード会との協議や加盟店の推進方法等も調査した上で、総合的に対応していく。

問 移住交流促進の拡充と6次産業化事業を積極的に取り組むべきではないか。

答 移住・交流促進協議会と関連団体等との連携により、支援体制の強化を図っていく。住宅政策も積極的に進めながら、6次産業化

についても積極的に支援をしていく。

災害に強いまちづくりについて

問 ヤーシチ公園の一角に和泊字公民館を建設し周辺を防災公園として整備できないか。

答 現在の和泊字公民館は昭和53年に建設されており、耐震強度の面と地震発生時における和泊字の住民を収容する避難所施設としては手狭であるなど、地震・津波災害時の避難所としては不適合です。国においては、今年3月の東日本大震災を



防災施設としての早期整備が望まれる和泊字公民館

受けて防災対策関連事業が充実強化されており、また、防災公園と避難所施設が隣接していることは、防災上の観点から相乗効果が期待できることから、町としても、総合的な防災機能を備えた、地域の防災拠点施設としての整備を視野に入れ、県や和泊字と協議を進めながら建設へ向けて検討していく。

問 再生可能エネルギーの導入についてどう考えているか。

答 本町においても災害に つよいまちづくりを推進する為に、避難所を中心とする整備を推進する必要があると考えており、地域情勢の変化や町民ニーズ、緊急性等を踏まえ有利な補助事業等を活用しながら、積極的にその導入を推進していきたいと考えている。

福祉のまちづくりについて

問 本町の障がい者（児）の支援システムについてどのように考えているか。

答 和泊町自立支援協議会を設置し今後は、関係機関と連携を図り、今年度中にネットワーク会議を設置し、より一層切れ目のない支援システムを構築していく。

教育のまちづくりについて

問 複式学級解消対策にどう取り組んでいくか。

答 複式学級になると、児童の学力低下が懸念されたり、担任の負担も増えたりします。それらを解消するために、来年度以降、複式学級には、担任の指導や業務を支援する支援員を、終日配置していくと考えている。

第5次総合振興計画の進捗状況。
国営土地改良区設立と福祉施策について



伊集院徳二議員

第5次総合振興計画について

問 基本計画に基づいた実施の進捗状況は怎么样了か。

答 毎年度更新するローリング方式とし、PDCA(計画・実行・評価・改善)による行政評価システムを活用して事後評価を行い、公表している。11月末時点でハード事業は61%が発注済みで年内発注予定が26%、年度内発注予定が13%という状況です。平成24年度の新規事業については、当初予算ヒアリング前に、実施事業検討会を開催し、事業の目的、概要及び必要性について事前に評価し、総合振興計画の実現に向けた予算

編成となるよう取り組んでいく。

国営土地改良区について

問 平成25年3月末日設立に向けての事務作業はどのようになっているか。

答 合併については、統合整備計画事項(案)を基に協議がなされている。協議事項が39項目ありますが、その中で24項目については、沖永良部地区土地改良区統合整備推進協議会で承認され、残った項目については、担当者会・準備委員会・理事会を経て、推進協議会での承認後に合併準備契約書を締結する計画となっている。

問 両町で解決しなければならぬ課題はないのかどうか。

答 主に未収金・地区編入・

土地改良財産の取扱い・賦課基準が課題として上げられている。未収金については、県営事業に係る負担金の未収金が白百合土地改良区には残っている。両土地改良区の財産にも違いがあり、賦課基準についても両土地改良区で全く異なるため、お互いの利害が一致するよう意見を取りまとめ、関係機関からの意見、指導を受けながら、平成24年度末の合併に向けて取り組んでいく。

問 本町の溜池の数と土地改良区が管理する取水施設の数、又、集落と基本協定を結んでいる施設の数はどうなっているか。

答 白百合土地改良区が管理する取水施設は22箇所、そのうち溜池の数は17箇所です。又、集落と基本協定を結んでいる施設の数は73箇所です。

福祉施策について

問 本町で取り組んでいる高齢者福祉アドバイザー促

進事業は具体的にどのような活動をしているのか。

答 地域において何らかの支援が必要な高齢者や障害者など要援護者に対する日常の中での見守り、各字近所支え合い会議での情報交換、要援護者に身体的・環境的变化があった場合における民生委員や関係機関への連絡をしている。今後の課題として、取組にばらつきのある活動の明確化を図るとともに地域の方に見守りに関する理解をさらに深めていただき、在宅福祉アドバイザーが活動しやすい環境づくりを行う必要がある。

あると考えている。

新年度に向けた交付金事業について

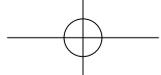
問 国土交通省が取り組んでいる離島支援交付金とは具体的にどのような内容の事業なのか。

答 流通の効率化に係る施設等の整備又は生活必需品や島内産品についての輸送コスト補助を行う自治体に対し、国が必要な予算の支援を行う事業であり「流通構造改善への支援」と「輸送コストへの支援」の2点に分けられている。



お宅訪問し近況を確認する、在宅福祉アドバイザー





先進事例に学ぶ!

総務文教委員所管事務調査について

当委員会の9月定例会後の所管事務調査についてご報告します。

南さつま市坊津学園・枕崎市学校給食センター視察

日程 平成23年10月26日～28日

参加者

総務文教常任委員会

盛 泰夫、平 勝美、

宮田裕雄、豊枝敏勝、

和 正巳

教育長(逆瀬川勝久)

給食センター事務長(末川幸男)

目的・視察内容

①南さつま市坊津学園

年々少子化が進む中、町内小中学校の中でも、内城小学校、大城小学校においては、来年度には複式学級になる可能性があります。このことについては、本町だけではなく全国的に課題となっており、その状況の中、小中一貫教育への取り組みを行っている南さつま



校舎建設予定地で説明を受ける委員

市坊津学園小中学校へ行ってきました。現在は、施設分離型小中一貫校としていますが、平成25年4月には施設一体型の小中一貫校を目指し建設中でした。戦後の日本は、小学校6年間、中学校3年間を就学年数にする6・3制を採用してきました。しかし、現在の児童生徒の実態が、この6・3制にはそぐわないとの理由から新しく4・3・2制等、新しい学年構成を採用する小中一貫校が増えてきています。私達委員会としても、児童生徒が充実した学校生活を送れるように地域の皆様の意見を集約し、教育委



ガラス張りの見学コースからの撮影(整然とした厨房)

②枕崎市学校給食センター
本町の給食センターは昭和46年に建設され、町内各小学校に安全・安心な学校給食として開始した昭和47年から、早40年を迎えようとしています。建物も老朽化が進み、このままでは児童生徒に安全・安心な学校給食を提供することも難しいという理由から、給食センター建設実行委員会を立ち上げ、平成26年9月に新たな給食センター稼働目標に取り組んでいます。近年建設されている給食施設を参考とするため、平成23年

員会と協議して参ります。



給食センターについての説明を受ける委員

9月に2000食規模の給食センターとしてスタートした枕崎市立学校給食センターへ、運営及び稼働状況について調査して参りました。完全ドライ方式を導入し、温湿度管理の自動化・自家発電装置の設置等、最新の設備がなされ、ガラス張りで見学通路もあり安全・安心な給食センターでした。和泊町は、平成26年9月に1000食規模の給食センターの稼働に向け、「生きる力」を育む、より安全・安心な学校給食を目指し給食センター建設実行委員会と共に取り組んで参ります。



◀新春町内1周駅伝競争 (元旦)

16チーム参加

Aブロック 優勝：和泊高千穂

2位：手々知名

3位：玉城

Bブロック 優勝：西原

新春 の各種行事



▶成人式 (2日)

83名の参加者



▲書初大会 (5日)

125名の参加者

▼消防出初式 (6日)

女性団員を含め総勢 110名の団員



編集後記

平成23年第4回定例会が、12月13日から16日まで開催されました。一般会計補正予算等を可決し、一般質問は5人の議員が町政を質しました。国、県、市町村ともに財政は非常に厳しい状況にあり、私達議会も行政改革の一環として自ら議員定数を現行の14名から12名に削減を致しました。町民の声を声とすべく、町民と行政の間でのパイプ役として頑張っていきたいと思っております。

今年を振り返ってみますと大きな災害の年であり日本の厳しい経済情勢に追い打ちを掛けるような年でありました。「いつまでも有ると思うな親と金、ないと思うな運と災難」改めて、私達の町を見つめ、安心・安全、健康で文化的な生活がいつまでも出来ますように努力をしたいと思います。

(文責 山下幸秀)



旭日双光章を受章された
(故)大里章幸 前和泊町議会議長のご冥福をお祈り申し上げます。

議	議	議	議	議
長	長	長	長	長
前	永	平	山	泉
田	野	野	下	下
力	利	勝	幸	秀
	則	美	樹	樹